

○議長（河野） 4番、三好東曜君。

○4番（三好） はい、4番、三好東曜。

○議長（河野） 三好君。

○4番（三好） 本日最後の一般質問です。皆さんお疲れのところですが、お聞きいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

私よりの一般質問は度々ですけれども、新型コロナワクチンについてです。「9月20日より世界同時に始まる XBB ワクチンの接種に十分な説明を」ということで質問させていただきます。

今回も、新型コロナウイルスの mRNA ワクチンについての質問なんですけど、私が何度も何度も、一貫してこの世界人類を実験台にした危険なワクチン接種に対して質問をしているのは、綾川町の行政執行部のみならず、議員の皆様、そして住民の皆様にもその実体を正確に把握していただき、その危険性と裏に隠された意図を知っていただく為です。

よって、メインメディアの報道では行われる事が少ない、利益相反が無い有識者の警告や他国の政府広報や報道、研究結果をお伝えする事で、より正確に実態の把握の一助となればと思ひ、繰り返し mRNA ワクチン関連の質問をさせていただきます。

そして、世界同時に行われたこの一連のワクチン接種キャンペーンは人助けの為に行われているのではなく、膨大な医療、製薬利権と、人口削減の為に行われているのではないかと言う疑問を住民に投げかける為でもあります。

さて、9月20日より始まる XBB ワクチンの接種についてお聞きします。

この XBB ワクチンとはどのようなワクチンで、従来の mRNA ワクチンとどのような違いがあるのでしょうか。

2つ目の質問です。日本でのコロナワクチン被害は厚生労働省の発表では2023年7月28日時点で2,076人死亡、重篤が27,361人となっています。インフルエンザワクチンと接種回数を同じ程度にし、比較したら死亡報告は新型コロナワクチンの方が50倍多く、副反応報告は17倍多い事を名古屋大学の小島勢二教授は指摘しています。このワクチンも同程度の死亡と副反応が予測されているのでしょうか。

3つ目、7月24日の新型コロナワクチン接種後にご主人を亡くされたご遺族で《繋ぐ会》の河野明樹子氏と、「新型コロナワクチン後遺症患者の会」の歴史的な記者会見の日でした。河野明樹子氏は大阪府庁記者会見室で、患者の会は東京の厚労省記者クラブでそれぞれ記者会見を行い、NHKや大手新聞社などの主要メディアをはじめ各報道機関が一斉に今回の会見を報じました。

これらの記者会見がきっかけとなり、新型コロナワクチン接種後に死亡された方やそのご遺族、そして、ワクチン接種後に健康被害に遭われ現在も体調不

良に見舞われている方などの救済認定が加速し、その後ワクチン原因の死亡認定が50人以上行われ、210人を越しました。

副反応疑いでの死亡報告は2千人を超え、重篤副反応は約2万7千人います。さらに8月24日の「薬害根絶デー」には利益相反の無い学術団体として一般社団法人「ワクチン問題研究会」が6月に設立されたとの発表があり、昨日9月7日に記者会見が行われました。

町、県、国としてそれぞれの新型コロナワクチンによる薬害実態を接種開始から現在まで時系列で、相談件数、死亡認定、副反応疑いでの死亡報告、重篤副反応、後遺症を踏まえて教えて下さい。

4つ目の質問です。9月2日に「mRNA Vaccine Toxicity」という本が日本語翻訳版で無料公開されました。これは全国有志医師の会のホームページに掲載されております。この本では新型コロナウイルスワクチンに対する最新の総まとめ書籍でありまして、Micheal Palmer MD や Sucharit Bhakdi MD など、医師の協力によって作成されております。

この本が作成された理由は、本の中の文章から引用すると、「COVID-19 ワクチンによるリスクと明白な被害について一般の人々に情報を提供することが依然として必要かつ緊急であるが、本書を執筆した主な理由は別のものである。mRNA ワクチン技術が近いうちに SARS-CoV-2 以外の病原体にも適用されることは明らかであり、本稿執筆時点では、CMV、EB ウイルス、RS ウイルスなど数種のウイルスに対するこのようなワクチンの臨床試験がすでに進行中である。本書の目的は、これらの将来の mRNA ワクチンが、COVID-19 に対するワクチンですでに明らかになっているものと同じ深刻な害を引き起こすことを想定しなければならず、その方法もほぼ同じであることを示すことである。この害は mRNA 技術に直接組み込まれているということと、子どもと自分自身を薬のように着飾った毒物から守るためにできる限りのことをしなければならないということ、皆さんが理解できるように手助けしたいと思えます。」との事です。

簡単に言うところのワクチンは薬を装った毒であり、その毒性は mRNA ワクチンによる損傷が慢性の心臓、血栓、神経、免疫、生殖、その他の器官の機能不全として発現するには、数カ月、数年、数十年かかることがあります、mRNA ベースの COVID-19 ワクチンについては、すでに数 10 の査読論文で重大な害が実証されていると結論づけています。

このように、未知の危険が既知の危険になったと指摘される今も、町として接種を十分な住民説明を行わずに推奨していく理由は何でしょうか。利害、町の立場、国の立場、説明責任、実態の報告、被害者の救済の観点を踏まえてお答え下さい。

また、さらなる住民説明を行うのであるならば、その内容と時期と頻度と方法を教えてください。

5つ目、綾川町が接種券の一律配布を取りやめるために必要な条件を教えてください。全国には接種券の一律配布をしていない自治体は2023年2月17日時点で、6カ月から4歳児までで402自治体、5歳児から11歳児までで88自治体あります。綾川町は接種券の一律配布は取りやめないのでしょうか。

以上5点お伺いいたします。

○議長（河野）前田町長。

○町長（前田）はい、議長。

○議長（河野）町長。

○町長（前田）はい、議長。

○町長（前田）三好議員の質問にお答えをいたします。

まず、1点目の「XBB ワクチンとはどのようなワクチンで、従来の mRNA ワクチンとどのような違いがあるのか」については、9月20日から開始される秋開始接種を希望される方へは、基本的には「XBB. 1.5 対応 1 価ワクチン」の接種を実施いたします。これは mRNA ワクチンの一つであり、オミクロン株 XBB. 1 系統に対応したワクチンであります。より高い中和抗体価の上昇が期待され、重症化予防効果、発症予防効果の向上が期待をされております。

2点目に「XBB. 1.5 対応 1 価ワクチンの死亡と副反応の予想について」は、2023年7月28日付、厚生労働省副反応検討合同部会資料によりますと、新型コロナウイルスワクチン接種開始後の令和3年2月17日から令和5年4月30日までにおいて、ファイザー社、モデルナ社、武田社ワクチンを合わせて、接種後の死亡報告であります。全国で12歳以上で2,071件、5歳から11歳で3件、乳幼児で1件であります。12歳以上の心筋炎が503件、心膜炎が148件となっております。これらの報告は、ワクチン接種との因果関係が特定されたものではありません。これまでの死亡に係る副反応疑い報告の状況及び国内外の接種後のリスクの分析のエビデンスを踏まえると、ワクチンの接種のメリットが副反応などのリスクより大きく、現時点においては引き続きワクチン接種を継続していくこととしてよいと厚生労働省より報告されております。この判断に従い、町としても接種体制を整備してまいります。

次に3点目の「町、県、国としてそれぞれの新型コロナウイルスワクチンによる相談件数、死亡認定、副反応疑いで死亡報告、重篤副反応、後遺症について」は、国における相談件数は公開がされておらず、健康被害救済制度による死亡や副反応や後遺症については先ほど2問目でお答えした通りであります。

香川県で開設している新型コロナワクチン健康相談コールセンターへの電話相談の件数は、令和3年3月12日から令和5年8月31日までで13,639件であ

ります。この相談件数の内訳には、接種後の副反応に関する相談だけでなく、持病があり薬を飲んでいるが接種してよいかなどの接種前の相談や、その他ワクチンに関する一般的な質問も含まれています。

町におきましては、主に町コールセンターやえがおで県と同様の相談を受け付けておりますが、相談件数につきましては把握はできておりません。副反応等についての相談を受け付けた場合、その内容を確認した上で、香川県コロナワクチン健康相談コールセンター、中讃保健福祉事務所やかかりつけ医、または診断を受けた医療機関等へ相談及び受診をお勧めをしておるところであります。

町へのこれまでの健康被害救済制度の相談件数は8件であります。相談を受けた場合は、救済制度について説明を行っております。申請状況や国における審査結果については個人情報となるため回答を控えます。

次に、4点目の「住民へのワクチン接種の説明について」は、ワクチンの情報については、広報誌やホームページ等を活用しながら実施をしております。

次に、5点目の「接種券の一律配布を取りやめるための必要な条件について」は、令和4年12月の一般質問でも回答しましたが、ワクチン接種は強制ではなく、個人の判断で接種をするものであります。町は正確な情報を住民に伝えてまいります。接種対象となる方に接種券を送付することで、秋開始接種を希望する方が接種機会を逃すことがないように努めてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○4番（三好）はい、議長。

○議長（河野）三好君。

○4番（三好）はい。ご答弁ありがとうございます。

ちょっと、最後のところで町は正確な情報をお伝えしていくということをお約束いただきましたというふうに、解釈いたしますが、正確な情報という点で言いますとですね、過去44年間のワクチン被害認定の総数が3,522件。これは日本脳炎だとかポリオだとか、BCG、いろんなもうありとあらゆるワクチンの被害認定件数が3,522件でございます。死亡認定数が151件と。この新型コロナワクチン被害のみで、もうすでに過去44年間分を抜いておまして、総認定数が4,098件。死亡認定数は210件。もうこの数字を見るだけでも、過去最大の薬害であるというのが確定してる案件でございます。このことをぜひ住民に広く知らしめていただけたらと思います。糖尿病学会、内分泌学会、眼科学会、救急医学会、日本循環器学会などなど、複数の学会から、どんどんどんどん報告が上がってきててですね、こういうことを本当に、薬害に、もうすでになってしまってるんですね。

厚生労働省は、今、隠蔽隠蔽、隠す隠すという形で、綾川町もいただいているとは思いますが、厚生労働省からのお達し、2022年の9月にメールが届いているとは思いますが、他の県との整合性のため独自に進達件数や認否結果を公表するのは控えてください。また問い合わせに対しても回答を差し控えるようにお願いします。市民の方には、個人の特定につながる恐れがあることから、お尋ねのような公表は行っていないとご説明いただければと思いますというような、メールが届いたと、いうふうに報告が入っております。個人の特定につながる恐れは、ないですねこれ、進達結果や認否結果、公表しても個人が特定されるっていうことはなく、実際に8月の末に兵庫県が開示しております。これは、サンテレビというメディアが情報開示請求をしたのに対し、問題はないということで、兵庫県が開示しております。

さらにはですね、この患者の会の皆様が、今後、公文書開示請求を行っていくと、自治体の市町村での受け付け数、国に到達するまでの期間、市や県での審査会の頻度、審査結果を受領するまでの期間、健康被害に関する情報が十分に公開されていないので、市民団体がするというような異常事態になっております。

さらに、刑事告発も起こってましてですね、これは殺人罪、殺人未遂罪、業務上過失致死傷罪、公務員職権乱用罪告発事件で、被告人一覧に菅元首相、岸田首相、加藤勝信厚生労働大臣、萩生田光一文部科学大臣など、たくさん、河野太郎氏も入ってますね。合計11名が、告発されております。コロナで感染死亡した人の90%がコロナワクチンを打っていた、もしくは、さらに、厚生労働省の職員のコロナワクチンの接種率は1割未満で、全国都道府県知事は3名のみ、ワクチン接種をしていた。こういうようなことが、明らかになっております。

こういうようなことも、町として、開示して住民に正確な情報といった、これは正確な情報になりますので、説明していただけるのでしょうか。お願いいたします。あわせて綾川町の健康福祉課課長や町長や副町長、これを進めている人たちの接種はいかがなんでしょうか。接種されたうえで進められているのか、自分は危険だと思うから接種しないで進めているのか、そのところをお伺いしたいと思います。

○議長（河野） 土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥） 三好東曜議員の再質問についてお答えします。2022年のメールによる通達というのは、こちらではちょっと確認できていないので、お答えちょっと今控えさせていただきます。それから、職員の方の接種につきましては、これも把握しておりません。ですので、何人、誰が受けているかというのは、わかりませんが、私個人は受けております。

- 4番(三好) 町長、副町長についてもお聞きしております。
- 町長(前田) 受けとる。
- 4番(三好) 受けてる。
- 議長(河野) 皆さん受けとるということです。再々質問はありますか。
- 4番(三好) はい。
- 議長(河野) 三好君。
- 4番(三好) 再々質問の前にお答えいただけてないんですけど。これ薬害確定してるってということで、これを町民に説明するかどうかというのを、一番メインで、お聞きしたんですけど、たとえば、こういういろんなことが、毒やという人が、たくさんいらっしゃるんですよ。実際に害が起こって、学術団体まで立ち上がりました。

もう一時の知らない未知の新型コロナワクチンではないんです。このことに、先ほど答弁漏れでするので再々質問の前に答えていただきたいと思います。今の再々質問にカウントせんとしてください。お願いします。
- 健康福祉課長(土肥) 不足していた部分についてお答えします。先ほど仰ったように国からそういう通知が来ているということであれば、それを確認した上で、今後また検討していきたいというふうに思います。
- 議長(河野) よろしいですか。再々質問はありますか。
- 4番(三好) はい。議長。
- 議長(河野) はい、三好君。
- 4番(三好) まあなんというか、国から通知が来るのを待つのではなくて、これ厚生労働省が出してるデータですね。厚生労働省のデータを見るとわかることなんです。もう言われて久しい、もう本当に薬害になってしまってる。我々は、こういうワクチンの、日本だけなんです、今、本当に打って打って打って打ってというお達しが来てる国は。例えばイギリスでは65歳未満の健康な人はワクチンを打ってはならない、新型コロナワクチンを打ってはならない。それ以上の人でないと打つことができないっていうふうに、もう変わってしまっている。このXBBワクチンについても、既接種者は、武漢株の抗体ができるのみで、全く意味はない。さらに毒性が強いと。毒性が強いの、理由がある。しかもこのワクチンというのは、マウスの実験しかされていないと。これを我々日本人に、日本人で人体実験をしようという流れに、世界的に見るとなっておるんですね。これが事実です。そのことを事実であるっていう、事実を公表するっていうならば、住民にちゃんと説明する義務があると思うんです。このワクチンによって、20 数万人の超過死亡が起こっているというふうに言われております。このワクチン禍という名前までできております、コロナ禍ではなくて、ワクチン禍というふうに言われております。こういった状況をかなが

み、今までの対応では、駄目だと思うんですね、もうこれ、銃弾を注射に変えて、攻撃されてるんですよ、我々は。そのことを知っていただきたい。大量虐殺が今起こってるんです。ジェノサイド、20 万人以上ですよ、原爆投下でどれだけの人が亡くなったか、それが何発分ももうすでに亡くなっているんです。このワクチンを打ち出した後に。これ以上町民にこの危険な生物兵器を打ち続ける、それを促し続ける、危険をちゃんとこれインフォームドコンセントですよ、こういうリスクがありますよ、っていうリスクを伝えることなく、進め続ける。これは殺人の加担にもなります。ですので、ちゃんと十分に説明をするっていうことに努めていただきたいと思うんですけども、突っ込みどころがありすぎてですね、もうこれ以上、いうことっていうのが、なかなかあれなんですけれども。最後に、この一般社団法人ワクチン問題研究会が立ち上がった、その時のメールを読んで、これを聞いて、それでちゃんと説明をしていただけるかどうかをお伺いしたいと思います。

一般社団法人ワクチン問題研究会、9月7日設立記者会見で、2021年2月17日に、医療従事者へ先行接種が開始されて以来、2年6カ月を超えました。当初コロナワクチンには以下、3つの効果が期待されていました。

感染予防：接種した人が感染しない、発症予防：発症者が減少、重症化予防：重症患者が減少、死亡入院など。果たして今回の mRNA ワクチンに大変この期待する効果があったのでしょうか。そして9月20日から XBB 変異株対応型の同じ mRNA ワクチンが、全年代を対象に開始されようとしています。

我が国日本において7回目接種ワクチン行政は止まることなく進み続けていますが十分な議論と検証はなされているのでしょうか。答えはノーだと思います。現在、新型コロナワクチン接種後にまん延する健康被害、ワクチン接種行為症候群 PBS が顕在化し、有効な治療法にたどり着けずに、長期的に苦しんでいる患者が非常に多く存在し、人類史上類を見ない大薬害事件になっています。そこで私たちはこのこれらワクチン接種後遺症群を、これまでにない新たな疾病概念としてとらえ、診断基準を策定していくため、この全国有志医師の会を母体として、非営利型の一般社団法人であるワクチン問題研究会をこの6月に設立しました。これは利益相反のない独立した学術団体であり、日本のみならず世界の医学の発展に貢献すべく立ち上がった団体です。

活動などの、詳しい内容についてはホームページに掲載してありますが、プロジェクトとしては4つのワーキンググループ、BVS データベース、検査方法開発、治療方法確立、文献データベースに分かれ、会の目的に向かって活動してまいります。

ということで、コロナワクチン参加は現代人が遭遇した全世界的なパンデミックに対してワクチンと称する核酸医薬 mRNA、脂質ナノ粒子製剤、ある種の

遺伝子治療薬を全人類規模で投与した人類学史上空前の災厄、人道的犯罪、全世界規模の人体実験にはかなりません。今回記者会見を企画した理由は、ワクチン後遺症の患者さんたちが記者会見を行ったことであり、それに対し、我々医師側の、正面からの誠実な意思表示を示す存在証明、その1点ですということです。

お答えいただけたらと思います。

○議長（河野） 土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥） 三好議員の再々質問にお答えしたいと思いますが、今の内容を、突然長々言われてもちょっと理解に苦しみます。ただ、メッセージーRNAについては、今、厚労省は、薬害はないとしております。ですんで、前から申し上げましたように、綾川町は国の方針に従って、やっていくというところがございます。接種に関しましては、反対する方は接種をしてないというふうに判断しております。ご理解いただけたらと思います。

○4番（三好） 答えてないです。答弁答えてないです。ちゃんと伝えていくかどうか、ということについて聞いておるので。それでは答えになりません。厚労省が薬害というふうには言っていないとしても、データでは過去45年分を一つのワクチンで抜いてしまっています。これが薬害でないなら、すべての薬害は存在しません。そのことについて、ご答弁いただきたいと。

○議長（河野） はい、土肥健康福祉課長。

○健康福祉課長（土肥） 説明というのにつきましては、一応もう、こちらの方が正しい正確な情報というんで伝えていきます。

○4番（三好） 何をですか。

○議長（河野） はい、ただいまのお答えで終結したいと思います。よろしいですか。

○4番（三好） よろしくないですね。何を伝えるんですか。

○議長（河野） はい、以上で、三好東曜君の一般質問を終わります。